

ジェンダー主流化の意義・重要性

- 近年、国際機関において、ジェンダーに関する様々な会合の開催や調査研究が行われ、機運醸成が図られるとともに、諸外国においては施策の見直しが活発化。
また、国内でも、地方創生2.0を進める中で、「若者・女性にも選ばれる地方」の実現が大きな課題。
- 我が国の公共空間や社会経済では、男性と女性で、課題やニーズが異なる場面が少なからず存在。
(様々な指摘の例)
 - ・ 子供や荷物を抱えた女性は、徒歩移動や公共交通利用の際の不便が多い
 - ・ 公共空間では、嫌がらせや暴力の対象となりやすい女性は、不安を感じる人が多い
 - ・ 職場との単純往復だけでなく、家事や育児を含む多地点間を移動する女性にとって便利な移動手段が少ない
 - ・ 体格の小さな女性は、男性を想定した安全システムがうまく機能しない
- 「ジェンダー主流化」は、こうした男女で異なる課題に目を向け、それぞれのニーズに丁寧に対応して、あらゆる政策や事業などを立案・実行していこうとする取組。
- 男性だけ、女性だけでなく、こども、高齢者、障害者などを含むすべての人々にとって暮らしやすい社会を実現することが、成熟期にある我が国の目指すべき道。
暮らしや社会との関わりが深い国土交通分野は、積極的取組が求められる。

主な検討の視点例、諸外国の事例

男女の生活ニーズの違い

女性は徒歩や自転車での移動が多い

→ 除雪は、歩道・自転車道を優先する方針に変更。

外出機会の増加、
転倒事故の減少、
医療費の削減に。

【スウェーデン カールスルーゲ市】



犯罪リスク、不安感

地下通路を、明るく
て見通しが良く、安心
して使えるよう改良

【スウェーデン ウメオ市】



バス停付近を、明るくて開放
的な空間に刷新。風よけは、
足元が隠れず、外から死角に
ならないよう改善。

【スウェーデン カルマル市】



男女の体格の違い

電動スクーターの開発に当たり、一般的に
手の小さい女性にとっても握りやすく、よ
り安全かつ簡単にブレーキ等を導入。

【スウェーデン Voi社】



子育てのしやすさ

歩道を拡幅し、ベビーカーが通りやすく変更。
夜間でも歩きやすいよう街灯を整備。 徒歩移動
が多い女性の不便を解消【オーストリアウィーン市】

